

ドイツからボランティア生が来ています！

東日本大震災の年、独日平和フォーラムから、日本に於ける国際青年奉仕活動（JFD）の依頼を受け、2011年度よりサムエル信愛・未来・サムエル広島のこどもの園でボランティア活動開始。今日を迎えています。子どもたちと一緒に、遊んだり歌ったり、縄跳びコマ回しなど保育者の仕事のアシストの一年間を過ごします。英語でドイツ語で子どもたちは、異文化に触れる豊かな時間を満喫しています。



ロッテさん「ドイツの大晦日（Silvester in Deutschland）」

ドイツの大晦日の過ごし方は、家庭によってとても異なります。多くの家庭では、大晦日にラクレットやフォンデュを食べます。ラクレットでは、小さなテーブルグリルをテーブルの中央に置き、各自が自分専用の小さなフライパンで好きな具材を焼きます。よく使われる具材は、肉、じゃがいも、ブロッコリー、きのこ、パプリカ、ズッキーニ、トマト、とうもろこしなどです。最後にチーズをのせて焼くのが一般的です。フォンデュを食べる人もいます。テーブルの中央にチーズやスープを入れた鍋を置き、パン、じゃがいも、野菜、肉などをその中に浸して食べます。チョコレート溶かして、果物をつけて食べるチョコレートフォンデュもあります（これは私のお気に入りです）。また、家庭によってはポテトサラダとソーセージを食べることもあります。本当に家庭ごとにさまざまです。例えば、私の家では大晦日にいつも自家製ピザを焼いていました。夜の間には、チップス、プレッツェルスティック、お菓子などのスナックもよく食べられます。深夜



左からフリーダさん、アンジェリーナさん、ロッテさん

0時になると、シャンパンで乾杯をします（子どもにはノンアルコールのシャンパンやジュースが用意されます）。その時、お互いに「あけましておめでとう（Frohes Neues Jahr）」と挨拶します。多くの人は家族や友人と一緒に大晦日を過ごします。テレビでは毎年、イギリスのコメディ番組『Dinner for One（ディナー・フォー・ワン）』が放送され、多くの人が見ます。以前は「鉛占い（Bleigießen）」が人気でしたが、今では**ワックス占い（Wachsgießen）**が主流です。スプーンの上で少量のロウを溶かし、それを冷たい水に注ぐと、ロウが固まって形になります。その形を見て、新しい年の運勢を占うのです。例えば、**ワシ（Adler）**の形なら「成功」、**パイプ（Pfeife）**なら「危険注意」を意味します。特に若者や若い大人たちは、友達とパーティーをしたり、踊ったりして過ごすことも多いです。私の場合は、家族や友人とボードゲームをして過ごすのが恒例でした。そしてほとんどの人にとって欠かせないのが**花火（Feuerwerk）**です。自分で花火をする人もいれば、見るだけの人もいます。深夜0時になると多くの花火が打ち上がり、新しい年の訪れを祝って乾杯します。



フリーダさん「年末年始の過ごし方」



・ シル シャンパ
・ ラクレット
・ フォンデュ } 親睦
・ 000 に 花火
・ 鉛を注ぐ
→ 形は幸運です
・ あなたは新しい年に達成したいことをするために出ました

漢字も多用して教えてくださいました



アンジェリーナさん「年末年始の過ごし方」

★12/31
テーブルの下で10粒のブドウを食べる。
1粒食べるごとにお願いをする。
★1/1
家族で教会に行く
鉛を火で溶かしたものを水に落として、できた形で1年を占う
★ブタの形になるとラッキー、ナイフの形になるとアンラッキー



先生ー！

知っておくと役に立つ情報を発信！

アドバンスト・ケア・プランニング（ACP）について

介護老人保健施設
施設長 小野 栄治 先生



人生の最終段階における医療やケアの提供については、それに向き合う本人の死生観を含めた考え方を中心に、家族の思いや環境の要素など、繊細な配慮のもとに進めることが望ましい。人が尊厳ある生き方を保ち、平穏な死を実現するための意思決定を行うことを支援する中で、最も重要視すべきことが、本人の意思であり、近年、その意思決定を支援するためのプロセスをアドバンスト・ケア・プランニング（ACP）と呼ばれるようになった。いたずらに延命を図るより、QOLを重視し、場合によっては延命措置の差し控えや中止も考慮した上で、具体的には、薬剤投与、人工呼吸器装着、栄養補給などの措置をどうするかを協議する。内容によっては、死を早めることもあり得るので、その決定には慎重さが求められる。このようなプランニングは、医療関係者から適切な情報提供と説明がなされた上で、本人の自立した意思が確認され、決定できるように施行されることが基本である。その考えは変わることがあるので、可能であれば期間を置いて再確認を重ねる。さらにその意思を何らかの文書の形にできていれば理想的である。しかし、現実的には、それが出来ないことも十分想定される。そのような場合、家族からの聞き取りで、本人の意向を知っているかどうか、不明の時は、家族の考え方や希望を把握する。家族がいない場合や、判断ができない場合は、本人の最善を確保するか

観点から、医療・ケアチームの協議により判断する。このような基本的な考え方は、ガイドラインとして、日本医師会から示されており、実施にあたっては、それを参考にすることが勧められている。先ごろ、全国老人保健施設協会から、このようなACPがどの程度実施できているかに関するアンケートが私達の施設にも送られてきた。当施設では、まだ不完全な形に留まっており、家族と看取りの協議を行う際に、それに近いことを実施しているが、今後は、もっと積極的に取り入れてゆくことが求められている。従来より、新しい入所者をお迎えする際、入所時に、本人、家族、施設スタッフでのカンファレンスを行っているが、その機会もいいチャンスとなり得るので、入所予定のゲストさんとご家族に終末期における、医療・ケア内容の要否を、事前に検討していただくとともに、一助になるかと考えられる。今後は、ACPの実施の具体的な実施の手順を確立し、利用者、ご家族に対し、人生の終末期を不安なく、満足のゆく形で過ごしていただけるよう、相互理解の整った医療、ケアを提供して行ける体制を整えたいと考えている。



教会から「愛の手紙」



「聴く」— 自由を与える愛 —

カウンセラー 山崎 ジョイ 先生

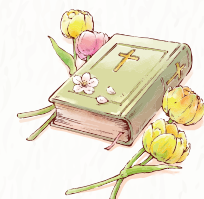


子供の頃、我が家は隣町に住むアメリカ人宣教師家族とお付き合いがあり、同年代の子ども同士は最高の遊び友だちでした。50年以上も前のことですが、当時の彼らが持っていたおもちゃはカラフルで、自分のものとの違いに子どもながらにショックを感じました。

ある日、宣教師夫人が私を台所に呼んで、大きな冷蔵庫を開けて見せました。中には大きなピッチャーが2つ入っていて、どちらを飲みたいかと尋ねてくれたのです。初めて見たグレープジュースと、知ってはいるけれどあまり家では飲ませてもらえなかったオレンジジュース。どちらが欲しいかを選べない（本当の気持ちを言えない）私に、もう一度優しく尋ねてくれました。「どちらのジュースを飲みたいの？あなたの好きな方を言っていんだよ。」そして、私は好奇心いっぱいに、グレープジュースを指差しました。あの時の嬉しさの感動は忘れることができません。あの時、子どもである私が直感的に受け取ったことは、「意思を聞いてくれることは愛“であるということです。その愛とは、人を束縛せずに自由（“自分で選択していい”）を与

えるものだということでした。だから幼子であった私もワクワクし、非常に嬉しかったのです。神は私たちを愛し自由な意思を与えてくださいました。本来、人は愛される為に、そして、神と自由に交流できるように、大切に創造されているのです。神は一人ひとりの人格を尊ばれ、心の思いを聴いてくださるのです。カウンセラーという話を聴く仕事をしている中で常に大事にしていることは、「今、目の前にいる方は神に愛されている世界で一番大切な方」だということです。ですから私は、その大切な方の本当の気持ちを尊重し、心を込めてお聴きしたいのです。心が自由にされ、神が造られた素晴らしさが益々現されることを喜ぶためにです。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」（イザヤ書43章4節）
「真理はあなたがたを自由にします。」（ヨハネ8章32節）



IGLのクリスマス会

12月14日リーガロイヤルホテル広島
クリスマス会を開催し職員の勤務に感謝しました。

職員表彰

IGLダンススタジオによるキッズダンス

盛大に盛り上がりました